OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	臨床哲学研究会の記録
Author(s)	
Citation	臨床哲学. 2011, 12, p. 102-104
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/20982
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

臨床哲学研究会の記録

≪研究会≫

第 1 回（1995.10.25）
　鷲田清一 (大阪大学教授・倫理学) :《苦しむ者》(homo patiens) としての人間

第 2 回（1995.11.30）
　中岡成文（大阪大学教授・倫理学）: 臨床哲学はどのようなフィールドで 働けるか
　入江幸男（大阪大学助教授・哲学）: ボランティア・ネットワークと 新しい〈人権〉概念の可能性

第 3 回（1996.4.25）
　フリー・ディスカッション

第 4 回（1996.5.17）
　川本隆史（跡見学園女子大学教授・倫理学）: 関東大震災と日本の倫理学 四つの症例研究

第 5 回（1996.5.30）
　池川清子 (北海道医療大学教授・看護学) : 看護 生きられる世界からの挑戦

第 6 回（1996.6.20）
　堀一人 (大阪府立刀根山高校教諭) :「おかわりクラブ」の実験から職業選択から自己実現への道筋

第 7 回（1996.9.26）
　鷲田清一・中岡成文 : 哲学臨床の可能性

第 8 回（1996.10.17）
　小松和彦（大阪大学教授・文化人類学）:「癒し」の民俗学的研究

第 9 回（1997.1.23）
　荒木浩（大阪大学助教授・国文学）:「心」の分節 中世日本文学における〈書くこと〉と〈癒し〉

第 10 回（1997.7.3）
　鷲田清一 : 臨床哲学事始め
　山口修（大阪大学教授・音楽学）: 音と身

第 11 回（1997.9.25）「看護の現場から」
　伊藤悠子（芦原病院看護婦）: Feverphobia の克服に向けて —Nightingale 看護論に依拠した小児科外来における実践から
　西川勝（PL 病院看護士）: 臨床看護の現場から

第 12 回（1997.11.27）
　小林 愛（奈良市社会福祉協議会・音楽療法推進室）: 音楽療法をめぐって

第 13 回（1998.7.2）
パネルディスカッション「学校を考える :『不登校』という現象を通して」
提題者 : 栗田隆子（臨床哲学・博士前期課程）: 不登校を語ること ―― 不登校の「私」性
寺田俊郎（臨床哲学・博士前期課程）: 誰が「なぜ学校に来るのか？」に答えられるか
畑英里 （臨床哲学・研究生）:「学校」という踏み絵

第 14 回（1998.9.24）
山田潤（大阪府立今宮工業高校定時制教諭）: 子どもの現在 学校の現在 ―増え続ける不登校の問いかけるもの

第 15 回（1998.12.12）
パネルディスカッション「学校の現在と不在 哲学の現場から〈不登校〉現象を考える」
提題者 : 栗田隆子（臨床哲学・博士前期課程）
寺田俊郎（臨床哲学・博士前期課程）
畑英里（臨床哲学・研究生）

第 16 回（1999.4.17）
浜田寿美男（花園大学教授・発達心理学）: 生きるかたちを伝える場としての学校

第 17 回（2000.2.19）「哲学教育の可能性と不可能性 高校の授業から」
堀一人（刀根山高校教員）
大塚賢司（同志社高校教員）

第 18 回（2000.7.1）
中島義道（電気通信大学教授）: 哲学の教育 対話のある社会へ

第 19 回（2001.7.14）
西村ユミ（日本赤十字看護大学）: 臨床のいとなみへのまなざし
武田保江（臨床哲学・博士課程修了）:「死体と出会いした」エピソードもをもとに

第 20 回（2009.12.9）「教材から哲学と教育を考える」
本間直樹（大阪大学 / 臨床哲学）: きく、はなす、かんがえる : 西宮市香櫨園小学校の子どもたちとともに
武田朋士（播磨学園）: 少年院における対話ワークショップの試み
菊地建至（関西大学非常勤講師）: 大学の哲学・倫理学の「教材」の多様さと共通性 :「教職」科目を中心に

第 21 回（2010.2.20）第 3 回哲学教育合同研究会「教育」
山田圭一（中央学院大学非常勤講師）、土屋陽介（日本大学）、村瀬智之（千葉大学）
:「ロゴスの道徳教育の可能性と有効性」
豊田光世（東京工業大学）:「こどもの哲学と環境倫理教育」

第 22 回（2010.7.24）「ネオ・ソクラティク・ダイローグの起源と実践」
寺田俊郎（上智大学）：NSD の起源―ソクラテスでもネルソンでもなく」
堀江剛（広島大学）NSD の『現場反省的』活用を考える : 国際共同研究プロジェクト「遺伝対話」の経験から
會澤久仁子（熊本大学）：NSD による医療の原則と価値の相互理解
本間直樹（大阪大学）：対話進行役養成における NSD の効能

第 23 回（2010.7.24）「マイナスからの哲学・倫理学教育」
菊地建至（関西大学ほか非常勤講師）：「日常を哲学すること」をはじめる・つづけるきっかけになる映像
活用授業――実演を中心に
田村公江（龍谷大学）：大学生への学習の支援のあり方とその困難ー専任教員としての経験から

《公開シンポジウム》

第 1 回（1996.12.13）「哲学における〈現場〉」
熊野純彦（東北大学助教授・倫理学): 死と所有をめぐって〈臨床哲学〉への途上で
古東哲明（広島大学教授・哲学): 臨床の現場 内と外との交差点
池田清彦（山梨大学教授・生物学): おまえのやっているのは哲学だ / おまえには哲学がない

第 2 回 (1997.2.21)「ケアの哲学的問題」
川本隆史（東北大学教授・倫理学): 生きにくさのケア―フェミニストセラピーを手がかりに
清水哲郎（東北大学教授・哲学): 緩和医療の現場ー QOL と方針決定のプロセス
コメンテーター : 中野敏男（東京外国語大学教授・社会学)

第 3 回（1998.2.20）
第一部 テーマ「女性におけるセルフをめぐって」
北川東子（東京大学）: 孤立コンプレックス
吉澤夏子（日本女子大学）: 親密な関係性
コメンテーター : 藤野寛（高崎経済大学）
コーディネーター : 霜田求（大阪大学）
第二部 テーマ「国際結婚」
山口一郎（東洋大学）: ドイツと日本のあいだで日常としての文化差
嘉本伊都子（国際日本文化研究センター）:
国際結婚とネーション・ビルディング
コメンテーター : 浜野研三（名古屋工業大学）
コメンテーター : 熊野純彦（東北大学）
コーディネーター : 田中朋弘（琉球大学）